

## 令和6年度 研究活動のまとめ

## 1 研究テーマ

「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり  
～付けたい力と手立てを明らかにして～

## 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
6/7	52名	御船小	8/8	58名	御船小	9/30	33名	広安小	1/23	52名	乙女小

## 3 研究の概要

## (1) 研究の内容

## ① テーマ設定

本年度の郡教科等研究会全体テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、小学校国語部会では、研究テーマを「『分かる・できる』『楽しい』国語科の授業づくり」として研究を進めていくことにした。また、本テーマの研究を進める上で、身に付けるべき具体的な国語の能力と手立てについて授業研究会で検証していくために、「付けたい力と手立てを明らかにして」をサブテーマとして設定した。国語科の学習において、付けたい力と手立てを明らかにして「分かる・できる」「楽しい」授業づくりをしていくことがねらいである。

本テーマの授業づくりには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不可欠であり、そのためには言語活動の創意工夫が必要である。つまり、本テーマは、これまでの言語活動を中心とした研究をもとに、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付け、さらに「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」という国語科の目標の実現に直結しているテーマであると考えている。

## ② 基本方針

ア 講話・研究授業・授業研究会を中心に研究を進める。

イ 御船・甲佐・山都部会と益城・嘉島部会の2つの部会に分け、各部会理事は3名ずつとする。事前研・授業研の運営等は、各部会の理事が中心となって実施する。

ウ 研究授業では、授業者は「熊本の学び学習構想案」の型で指導案を作成し、「単元終了時の児童の姿」「単元を通した学習課題」「本単元で働かせる、言葉による見方・考え方」を明確にして授業研究に臨む。

エ 授業研究会では、討議の柱を設け、柱を中心に、各会員の実践を踏まえ意見交換をする。

## ③ テーマに迫る研究のあり方

ア 講師の先生のご講話による授業づくりのポイント

北川雅浩准教授（熊本大学教育学部）によるご講話から「対話を通して豊かに読むこと」について、「お手紙」などの具体的な教材を基にポイントと手立てを学んだ。また、溝上剛道主幹教諭（熊本大学教育学部附属小学校）によるご講話から、「ありの行列」などの具体的な教材を基に国語科の授業づくりのポイントを学んだ。

イ 研究授業の主張点

研究授業の主張点として、「熊本の学び」でポイントとなる3項目「単元終了時の児童の姿」「単元を通した学習課題」「本単元で身に付けさせたい見方・考え方」を明確にし、児童が見通しをもち、主体的に授業に臨めるようにした。

ウ 討議の柱を中心にした意見交換

研究授業の参観及び研究会の視点の中心となるものとして、討議の柱を設定した。限られた時間の中で研究を進めるためには、様々な研究の視点の中から本時の授業で明らかにされる部分に焦点を当てて討議を行う必要がある。事前研究会での協議や授業者の思いをもとに討議の柱を決定し、授業研究会を行った。授業研究会では、全体での質疑応答の後、討議の柱を中心に少人数での班別協議を行った。その際、付箋紙を活用し、討議の柱に沿った意見交換がしやすいように工夫した。

## (2) 成果と課題

## ① 成果

- ・第1回研究会では、北川雅浩准教授（熊本大学教育学部）をお招きし、「対話を通して豊かに読むこと」について、ご講話いただいた。読むことにおける対話の意義、対話のポイント、対話と書くことの相関など、国語科で対話力を育てるためのポイントを具体的な教材を基に分かりやすくご講話いただき、参加者にとって大変有益な情報が多く得られた研究会となった。
- ・第2回研究会では、溝上剛道主幹教諭（熊本大学教育学部附属小学校）をお招きし、「各領域・各学習過程での『分かる・できる・楽しい』の手立て」について、ご講話いただいた。講話の後には、参加者の悩みに応える形で、素材研究・学習者研究・指導法研究など、教材研究に関するお話もいただき、参加者からは、今後の教材研究の参考になったとの感想が多く聞かれた。
- ・第3回研究会は、「食べ物のひみつを教えます」（光村図書3年）を使った提案授業を基に研究を深めた。分かりやすい文章の書き手として、獲得した事例の選び方や順序性の工夫を、自分の文章に積極的に取り入れて書こうとする児童の姿が見られた。研究会では、梶山範夫教授（平成音楽大学）に、「ゴールを見通して読む目的的な読みの必要性」「構造の理解が内容の理解につながる」「説明文の書き方を生かして書く」といった助言をいただいた。参加者からは、「国語科は全教科の土台となっていることを再確認しました」「書き手の立場からの読みの大切さが分かりました」「教師自身が教材を面白いと思えるまで読み込むことが大切だと思いました」といった感想が聞かれた。
- ・第4回研究会では、「モチモチの木」（光村図書3年）を使った提案授業を基に研究を深めた。研究会では、「本当に豆太は変わったのか」という点を中心に活発な議論がなされた。松岡さゆり指導教諭（龍野小学校）から「読みの土台をそろえること・整えることが大切」「言葉に着目させること・言葉にこだわらせることが大切」といった助言をいただいた。参加者からは、「ICT、ワークシートなどがたくさん活用されていた」「教師が明確な読みの視点を持つことが大事だと思った」といった感想が聞かれた。

## ② 課題

今年度、久しぶりに全員参加で行うことができた研究会だが、同一校に会員が複数いる場合は、学校の都合で全員が参加できないことがあった。学びたい思いがあっても学べない人に、どう学びの機会を提供していくかを今後も考えていきたい。また、事前研では、参加対象者が連絡なく欠席してしまうことがあった。今後も、参加対象者への細かな連絡が必要であると感じた。

## 4 実践事例

### (1) 授業の概要

単元名： れいの書かれ方に気をつけて読み、それを生かして書こう

「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」

授業者： 広安小学校 井上 陽 教諭

授業では、児童が「分かった・できた・楽しい」という実感がもてるようにするために、事例の選択や順序、写真の使い方など、自分だったらどうするか考える活動を通して、筆者の工夫に気づくことができるような単元構成や細かな手立てが工夫されていた。授業研究会では、「本時の言語活動は、児童の思考を深める手立てとして有効だったか」「児童が説明的文章を自力読みできるような系統的指導の在り方はどうだったか」という討議の柱を設定し、班別協議や全体討議を行った。「児童の具体的な姿をイメージして、丁寧に授業づくりがなされていた」など、学びが深まる提案だったという意見が多く出された。また、日常的に言葉にこだわる指導をしていくことの大切さを確認することができた。

### (2) 学習構想案

#### 1 単元構想

単元名	れいの書かれ方に気をつけて読み、それを生かして書こう 「すがたをかえる大豆」（光村図書3年「あおぞら」p43～51） 「食べ物のひみつを教えます」（光村図書3年「あおぞら」p52～55）		
単元の目標	(1) 比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。（知(2)イ） (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思C(1)ウ） (3) 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思B(1)イ） (4) 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な情報を得ることに役立つことに気付くことができる。（知(3)オ）		
単元の	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

評価 規準	①比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。(2)イ) ②幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ)	①「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) ②「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ)	①目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたり、それらを明確にして文の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。
<b>単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）</b>			
説明文の読み手として、段落相互の関係に着目しながら、事例の選び方やその順序性についての工夫を、叙述を基に捉えようとしている。また、分かりやすい文章の書き手として、獲得した事例の選び方や順序性の工夫を、自分の文章に積極的に取り入れて書こうとしている。			
<b>単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）</b>		<b>本単元で働かせる見方・考え方</b>	
すがたをかえる〇〇ブックを作って、紹介しよう！		事例の選び方やその順序性について考えることを通して、言葉への自覚を高めること。	
<b>指導計画と評価計画（12時間取扱い 本時9/12）</b>			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一次	1	○題名とP.43の写真を見て、文章の内容を予想する。 ○「すがたをかえる〇〇ブック」を作成することを提示し、学習活動の見通しを立てる。	【態①】発言 【思②】ノート
二次	5	○段落分けと、「初め」「中」「終わり」の文章の組み立てを確かめる。 ○文章中の分からない言葉を、国語辞典を用いて調べる。 ○隠れた問いをさがす。 ○「中」の文章の工夫を見つける。 ・本論の段落内の文と文のつながり、接続語の工夫 ・事例の選び方や順序性の工夫 ・写真の使い方の工夫 ○筆者の工夫をまとめる。	★【知①】（ノート） ・辞書を使って、語句の意味を調べている。 ★【思②】（ノート・発言） ・目的を意識して、本文から中心となる語や文を見つけている。 ・段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係など、叙述を基に捉えている。 【態①】（ノート・発言） ・目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけている。 ・積極的に、文章の説明の工夫を見つけようとしている。
三次	5	○自分が調べる食材を決める。 ○本を使って、決めた食材について調べる。 ○学習したことをもとに、事例の選択、並べ方を考える。（本時） ○考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。	★【知②】（発言・ノート） ・調べるために本を活用し、本が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。 ★【思①】（発言・ノート） ・段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。 ★【態①】（ノート・発言） ・学習したことを基に文の構成を考え、筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。
四次	1	○書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ○班ごとに「すがたをかえる〇〇ブック」を作成し、4年生に見てもらおう。 ○学習の振り返りをする。	★【態①】（発言・ノート） ・文章を読み合い、友だちの文章のよいところを見つけるとともに、自分の文章のよいところを見つけようとしている。

## 2 単元における系統及び児童の実態（略）

### 3 指導に当たっての留意点

- ・導入では、①自己評価につながる学習活動（児童がこれまでに習得してきた力を確認する）②単元の学習課題に興味を抱くような学習活動（意欲の転換）の2つを行う。①の活動から、問いのあり方や、段落構成、説明の順序など児童のこれまでの認識や既習事項とのずれをもとに学習課題を設定する。②の活動で「すがたをかえる〇〇ブック」を作成し、4年生に紹介するというゴールを明確にすることによって、主体的に学ぶことができるようにする。
- ・事例の選択や順序、写真の使い方など、自分だったらどうするか考える活動を通して、筆者の工夫に気づくことができるようにする。
- ・単元時間の「めあて」や「まとめ」は、各教科内や各教科を貫く汎用的な能力が反復して身に付けられるように、学習内容を一般化する。「振り返り」では、複数の観点を示すことで、児童がその中から選んで書くことができるようにする。
- ・児童が見つけた筆者の説明の工夫は、毎時間積み重ねていけるように、教室掲示を行う。

#### 4 本時の学習

##### (1) 目標

事例の選択・並べ方について話し合うことを通して、自分の文章の構成を考えることができる。

##### (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 学習の見通しを持つ。</p> <p>①ロイロノートや、掲示を見ながら、前時まで に学習したことをクラス全体で振り返る。</p> <p>②本時のめあてや学習活動を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>【めあて】へんしんクイズをして意見を出し合い、よりよい事例の順番を考えることができる。</b></p> </div> <p>③へんしんクイズをする。 ◇時間がかかる順番かあ。 ◇そのまま切って食べるのが一番早いね。 ◇そのまま食べる、ジュース、ジャムの順番に しよう。</p>	<p>○単元のゴールを確認し、そのために前時までにし たことを振り返り、本時につなげる。</p> <p>○学習の目的・手順・話し合いの仕方などを確認す る。</p>
展開	30分	<p>2 課題の解決に向かって活動する。</p> <p>①班で、へんしんクイズを出し合い、並べ方を 考える。 ◇僕は、米のへんしんを調べて、「手間」に注 目して例を並べました。 この4つの例を、どのように並べたでしょう。 ◇そのまま食べるのが一番かんたんだね。 ◇白玉も米からできているなんて、びっくり。</p> <p>②お互いの並べ方を見合い、意見を交換する。 ◇僕はこうやって並べたけど、みんな同じかな。 ◇どうして、その並べ方にしたの？ ◇白玉は、粉にしているし、見た目が全然違う から、最後がいいと思う。</p> <p>③話し合ったことを基に、改めて事例の選択、 並べ方を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【期待される学びの姿】</b> 同じ食材でも事例の選び方や並べ方 にズレがあることに気付き、根拠や理由 を明確にして意見を交わしている。ま た、意見交換したことを基に、事例やそ の並べ方をよりよくしようと見直して</p> </div>	<p>○それぞれの事例カードを、タブレットで並べ替え ができるようにロイロノートに準備しておく。</p> <p>○同じ食材でも事例が違ったり、同じ観点でも並べ 方が違ったりすることに気づかせ、自分の意図に 合った並べ方ができるようにする。</p> <p>○同じ食材を選んだ児童同士で班を作る。</p> <p>○話し合いがまとまらない班は、全体で共有し、み んなで考える。</p> <p>○最初と最後に自分の考えがどのように変わった か分かるようにロイロノートで自分の考えを写 真に残させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【具体的評価規準】観点 思①</b> ○事例の選択・並べ方について話し合う ことを通して、よりよい説明文の事例 とその並べ方を考えている。 (方法：ワークシート・発言)</p> </div>
終末	10分	<p>3 学習課題に対する考えをまとめ、めあてに対 する振り返りをする。</p> <p>◇同じ食材でも、伝えたいことによって例も変 わるし、並べ方も違うことが分かった。 ◇みんなと同じ並べ方だったから、これで説 明文を書こうと思った。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>【まとめ】事例を並べるときは、「時間」「手間」「見た目」など、いろいろな見方で順番を考 えると、より分かりやすくなる。</b></p> </div>	<p>○次時の学習内容を確認する。</p> <p>○次時の活動について確認する。</p>